

II. 調査結果のまとめ

1. 家庭生活における男女共同参画について

(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方（固定的性別役割分担意識）について

【全体】では、「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」を合わせた『賛成派』は20.5%、「反対する」と「どちらかといえば賛成しない」を合わせた『反対派』は66.3%である。『反対派』が『賛成派』を45.8ポイント上回り、その差は前回調査(平成28年 33.4ポイント)より大きくなっている。また『賛成派』は全国調査(令和元年 35.0%)より14.5ポイント低い。

【性別】では、男女とも『賛成派』は前回調査(平成28年)より減少している(男性31.3%→26.7%、女性24.1%→16.3%)。

【性年代別】では、すべての年代で『反対派』が『賛成派』を上回っており、女性30歳代(91.5%)、女性18～29歳(86.9%)で特に高い。

(2-1) 家庭での役割分担について

現在結婚している方のみ(「該当しない」の回答を除く)の回答で、【全体】では、「キ 生活費を得ること」は「主に夫(62.0%)」が最も高く、「ク 重大事項の決定(高額な商品や土地・家屋の購入など)」は「夫・妻で半々(42.2%)」と「主に夫(36.2%)」がともに高い。その他の家庭での役割は「主に妻」が最も高い。

【年代別】では、「キ 生活費を得ること」は、40歳代と50歳代で「主に夫」がそれぞれ69.7%、67.2%と他の年代より高く、これより年代が上がるほど「主に夫」の比率は低くなっている。

「ク 重大事項の決定」は、40歳代で「夫・妻で半々」が52.8%と他の年代より高い。

(2-2) 家庭での役割分担に対する満足度について

現在結婚している方のみ(「該当しない」の回答を除く)の回答で、【全体】では、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた『満足層』は78.6%、「不満である」と「どちらかといえば不満である」を合わせた『不満層』が21.3%であり、『満足層』が『不満層』を57.3ポイント上回っている。

【性別】では、男女とも『満足層』が『不満層』を上回るが、男性は『満足層』が96.7%と女性(65.0%)より31.7ポイント高い。

【性・年代別】では、30歳以上のどの年代においても、男性の方が女性より『満足層』が高く、女性の方が『不満層』が高い。

2. 職場における男女共同参画について

(3) 一般的に女性が職業をもつことについて

【全体】では、『家事優先型』が28.8%、『職業継続型』が27.7%、『再就職型』が22.4%である。『職業継続型』は前回調査(平成28年 19.9%)より7.8ポイント増加し、『再就職型』は前回調査(平成28年 29.3%)より6.9ポイント減少している。

【性別】では、男女とも前回調査より『職業継続型』が増加し、『再就職型』が減少した。

【年代別】では、30歳代は『家事優先型』が43.3%と他の年代より高く、『再就職型』が6.6%と低い。40歳代と50歳代は『職業継続型』がそれぞれ37.3%、32.7%と他の年代より高い。

(4) 雇用者の職場の現状について〔複数回答〕

現在お勤めしている方みの回答で、【全体】では、「あてはまるものはない(60.1%)」が最も高く、「仕事の内容・分担に男女差がある(24.3%)」、「募集・採用・配属に男女差がある(18.5%)」が続く。

【性別】では、男性は「仕事の内容・分担に男女差がある(35.2%)」が20.0ポイント、「募集・採用・配属に男女差がある(21.3%)」が5.2ポイント、それぞれ女性より高い。女性は「あてはまるものはない(68.1%)」が16.9ポイント男性より高い。

(5-1) 管理職への昇進意向について

現在お勤めしている方みの回答で、【全体】では、「昇進したい」と「どちらかといえば昇進したい」を合わせた『昇進意向あり』が35.8%、昇進したくない」と「どちらかといえば昇進したくない」を合わせた『昇進意向なし』が64.1%であり、『昇進意向なし』が『昇進意向あり』を28.3ポイント上回っている。

【性別】では、男性は『昇進意向あり(48.6%)』と『昇進意向なし(51.5%)』で意見が2つに分かれている。一方、女性は『昇進意向なし(75.2%)』が『昇進意向あり(24.7%)』を50.5ポイントと大きく上回っている。また、女性は『昇進意向なし』が男性より23.7ポイント高い。

【年代別】では、18～29歳では、『昇進意向あり(59.3%)』が他の年代より高い。

(5-2) 管理職への昇進意向に必要な状況について〔複数回答〕

前問で『昇進意向なし』を選択した方みの回答で、【全体】では、「管理職の仕事が魅力あるものに思えれば(39.0%)」が最も高い。

【性別】では、男性は「管理職の仕事が魅力あるものに思えれば(43.7%)」が女性(36.3%)より7.4ポイント高い。女性は「家族の理解・協力があれば(25.3%)」が男性(4.5%)より20.8ポイント、「育児・介護などが必要なくなれば(21.9%)」が男性(2.2%)より19.7ポイント、「休業・休暇がとりやすければ(36.4%)」が男性(26.4%)より10.0ポイント、それぞれ高い。

【性年代別】では、男性30歳代は「管理職の仕事が魅力あるものに思えれば(69.3%)」が他の年代より高い。女性40歳代、男性30歳代、女性30歳代は、「休業・休暇がとりやすければ」がそれぞれ約4割と他の年代より高い。男女とも40代以下の各年代で「長時間労働がなければ」が高く、また男女とも若年層ほど「給与額が自分の希望に合うなら」が高い。

女性40歳代は「家族の理解・協力があれば(40.6%)」、男性60歳代は「どのような状況でも昇進したいと思わない(50.4%)」が他の年代より高くなっている。

(6) 女性が出産後も同じ職場で働き続けるために必要なことについて〔複数回答〕

【全体】では、「保育所、認定こども園、幼稚園、放課後児童会など、子どもを預けられる環境整備(84.6%)」が最も高く、「男性の家事参加への理解・意識改革(58.8%)」、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実(58.0%)」が続く。

【性別】では、女性は「男性の家事参加への理解・意識改革(65.6%)」が男性(51.1%)より14.5ポイント、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実(62.1%)」が男性(52.4%)より9.7ポイント、「介護支援サービスの充実(46.1%)」が男性(37.9%)より8.2ポ

イント、それぞれ高くなっており、男女差が大きい。

【年代別】では、全ての年代で「保育所、認定こども園、幼稚園、放課後児童会など、子どもを預けられる環境整備」が最も高い。18～29歳は「男性の家事参加への理解・意識改革(72.7%)」、「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革(58.7%)」、「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革(54.6%)」、「育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止(45.9%)」がそれぞれ他の年代より高い。30歳代は「短時間勤務制度や在宅勤務(テレワーク)などの実施(54.7%)」、60歳未満の各年代は「家事・育児支援サービスの充実(それぞれ4割強)」、60歳代と50歳代は「介護支援サービスの充実(それぞれ52.5%、48.9%)」が他の年代より高い。

(7) 育児・介護休業制度を利用する男性が少ない理由について〔複数回答〕

【全体】では、「職場に迷惑がかかると思うから(65.7%)」が最も高く、「休業取得に対し、職場の理解が得られないから(51.5%)」、「収入減になるから(44.7%)」、「仕事が忙しくて利用できないから(43.3%)」、「制度利用後の待遇面が心配だから(41.7%)」が続く。

【性別】では、女性は「休業取得に対し、職場の理解が得られないから(58.7%)」が16.6ポイント、「制度利用後の待遇面が心配だから(46.1%)」が10.9ポイント、「会社で制度を利用した前例がない、男性が取得した前例がないから(39.0%)」が12.0ポイント、「子育てや介護は、女性の役割だと思うから(25.4%)」が19.2ポイント、それぞれ男性より高い。

【年代別】では、18～29歳と40歳代は「職場に迷惑がかかると思うから」がそれぞれ74.6%、73.6%と他の年代より高く、18～29歳と30歳代は「会社で制度を利用した前例がない、男性が取得した前例がないから」がそれぞれ53.2%、48.3%と他の年代より高い。18～29歳は「休業取得に対し、職場の理解が得られないから(68.6%)」、「収入減になるから(61.2%)」、「男性が育児・介護休業を取得できることを知らないから(26.1%)」が他の年代より高く、30歳代は、「仕事が忙しくて利用できないから(55.7%)」が他の年代より高くなっている。

(8) 仕事と家庭を両立できる職場環境をつくるために必要なことについて〔複数回答〕

【全体】では、「有給休暇等を取得しやすい企業風土をつくること(48.3%)」が最も高く、「育児・介護休業制度を利用しやすくすること(43.2%)」、「経営者や管理職の意識を改革すること(34.8%)」、「在宅勤務やフレックスタイム制度等、柔軟な働き方ができる勤務制度を導入すること(29.8%)」が続く。

【性別】では、男性は「育児・介護休業中の給付金を充実すること(32.2%)」が女性(22.2%)より10.0ポイント高く、女性は「在宅勤務やフレックスタイム制度等、柔軟な働き方ができる勤務制度を導入すること(34.6%)」が男性(24.6%)より10.0ポイント高い。

【年代別】では、18～29歳と60歳代は「育児・介護休業制度を利用しやすくすること」がそれぞれ51.4%、50.3%と他の年代より高い。30歳代は「有給休暇等を取得しやすい企業風土をつくること(63.5%)」が他の年代より高い。

3. 地域活動、市民活動における男女共同参画について

(9-1) 地域活動や市民活動への参加状況について

【全体】では、「参加していない(71.4%)」が「参加している(28.6%)」を42.8ポイント上回っている。前回調査(平成28年)との比較では、「参加している」が6.0ポイント減少し、

前々回調査結果(平成23年 27.2%)とほぼ同様の値となっている。

【性別】では、女性は「参加している(30.4%)」が男性(25.9%)より4.5ポイント高い。

【年代別】では、女性18～29歳、男性18～29歳は「参加している」がそれぞれ5.3%、7.2%と特に低い。女性60歳代、女性50歳代は、「参加している」がそれぞれ38.5%、36.9%と他の年代より高く、また男性の同年代よりも高い。

(9-2) 活動に参加していない理由について〔複数回答〕

前問で「参加していない」を選択した方のみの回答で、【全体】では、「きっかけがないから(38.4%)」、「忙しく、時間がとれないから(36.5%)」が高く、「情報がないから(27.8%)」、「関心がないから(27.6%)」が続く。

【性別】では、男性は「関心がないから(30.8%)」が女性(24.8%)より6.0ポイント高い。

【性年代別】では、男性30歳代、男性50歳代、女性18～29歳は、女性40歳代は、「きっかけがないから」が他の年代より高く、男性50歳代、女性18～29歳、女性30歳代は、「情報がないから」が他の年代より高い。男性18～29歳、男性50歳代、女性30歳代、女性50歳代、女性60歳代は、それぞれ「忙しく、時間がとれないから」が5割以上と他の年代より高い。

(10) 地域活動等の現状について〔複数回答〕

【全体】では、「団体の会長に男性が付き、女性は補助的役職につく慣行がある(30.2%)」が最も高く、「男性の参加が少ない(26.4%)」、「男女が平等に活動している(24.3%)」、「女性は役員等の責任のある仕事につきたがらない(20.8%)」が続く。

【性別】では、女性は「活動の準備や後かたづけ等は、女性がやる慣行がある(22.6%)」が男性(13.6%)より9.0ポイント、「女性は役員等の責任のある仕事につきたがらない(23.7%)」が男性(17.0%)より6.7ポイント、それぞれ高い。

【年代別】では、40歳代は「団体の会長に男性が付き、女性は補助的役職につく慣行がある(48.8%)」、70歳以上は「男性の参加が少ない(34.3%)」と「男女が平等に活動している(31.9%)」、60歳代と70歳以上は「女性は役員等の責任のある仕事につきたがらない(それぞれ26.0%)」が他の年代より高くなっている。

4. 仕事と家庭生活、地域活動、市民活動の両立について

(11) 生活における優先度について

「優先している」「どちらかといえば優先している」を合わせた『優先している(優先する)』と、「優先していない」「どちらかといえば優先していない」を合わせた『優先していない(優先しない)』で分けた場合、【全体】では、「仕事」「家庭生活」「個人の時間」は【現実】【理想】の優先度とも『優先している(優先する)』が『優先していない(優先しない)』より高い。

一方、「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」は、【現実】は『優先していない』が『優先している』より高く、【理想】では「どちらともいえない(41.6%)」が最も高く、『優先する(29.7%)』と『優先しない(28.7%)』は意見が分かれている。

また、【現実】【理想】で優先度の差が最も大きいのは、「個人の時間」であり、【理想(75.5%)】が【現実(46.7%)】より28.8ポイント高い。「家庭生活」は16.4ポイント、「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」は14.2ポイント、それぞれ【理想】が【現実】より

高い。「仕事」は【現実(63.2%)】と【理想(59.5%)】で優先度の差が見られない。

【性別】では、「仕事」の『優先している(優先する)』は、男性では【現実(74.5%)】より【理想(65.8%)】が低く、女性では【現実(55.4%)】と【理想(55.7%)】で差は見られない。

「家庭生活」の『優先している(優先する)』は、【現実】では女性(70.7%)が男性(56.0%)より高く、【理想】では男女差は見られない。

「個人の時間」は、【理想】では男女差は見られないが、【現実】で『優先していない』は女性(31.8%)が男性(19.1%)より高い。「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」は、【現実】【理想】で男女差は見られない。

(12) 男性が家事、育児、介護等に参加していくために必要なことについて〔複数回答〕

【全体】では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくすること(45.1%)」が最も高く、「仕事以外の時間を多く持てるような勤務制度を普及させること(37.5%)」が、「男性の家事参加に対して抵抗感をなくすこと(33.6%)」が続く。

【性別】では、男性は「仕事以外の時間を多く持てるような勤務制度を普及させること(42.4%)」が女性(34.4%)より8.0ポイント高く、女性は「男性の家事参加に対して抵抗感をなくすこと(37.7%)」が男性(27.3%)より10.4ポイント高い。

5. 子育てについて

(13) 子どもの育て方について

「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成派』が高いものは、【全体】では、「イ 男女とも身の回りの家事ができるように育てる(97.9%)」、「ア 男女とも経済的自立ができるように育てる(97.6%)」、「オ 性別に関わらず子どもの個性を大切に育てる(96.5%)」、「ウ 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる(51.8%)」で、いずれも「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた『反対派』を大きく上回っている。一方、「エ 男は仕事、女は家庭を守るように育てる」については『反対派(68.3%)』が『賛成派(19.5%)』を上回っている。

【性別】では、「ウ 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」について、男性は『賛成派(61.1%)』が女性(46.0%)より15.1ポイント高い。

【性年代別】では、「ウ 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」について、男性は全ての年代で『賛成派』が『反対派』を上回っており、また、男性70歳以上、男性40歳代、男性30歳代は、『賛成派』がそれぞれ71.6%、64.5%、60.2%と、他の年代より高い。

女性は、女性18～29歳と女性30歳代で『反対派』が『賛成派』を上回っており、それぞれ『反対派』の値は56.7%、49.5%と他の年代より高い。

(14) 子どもに受けさせたい教育（最終学歴）について

【全体】では子どもが「男の子の場合」「女の子の場合」とも最も高いのは「大学」だが、「男の子の場合(70.4%)」が「女の子の場合(60.1%)」より10.3ポイント高い。また「短期大学、各種学校、専修学校」は、子どもが「女の子の場合(19.6%)」が「男の子の場合(7.8%)」より11.8ポイント高くなっている。

【年代別】では、40歳代、60歳代、70歳以上は、「短期大学、各種学校、専修学校」について、「女の子の場合」が「男の子の場合」より10ポイント以上高い。また、「大学」について、

60歳代、70歳以上は、「男の子の場合」が「女の子の場合」より10ポイント以上高く、差が大きい。

(15) 父親が子育てに関わることについて〔複数回答〕

【全体】では、「父親も育児を行うことは当然だ(73.7%)」が最も高く、「子どもに良い影響を与える(67.9%)」が「父親自身に良い影響を与える(55.1%)」,「仕事と両立させることは、現実として難しい(31.9%)」が続く。

【性別】では、女性は「父親自身に良い影響を与える(61.7%)」が男性(45.8%)より15.9ポイント,「子どもに良い影響を与える(71.9%)」が男性(62.8%)より9.1ポイント,それぞれ高い。一方、男性は「仕事と両立させることは、現実として難しい(37.3%)」が女性(28.5%)より8.8ポイント,「育児は女性の方が向いている(12.7%)」が女性(6.1%)より6.6ポイント,それぞれ高くなっている。

6. 男女の人権の尊重について

(16) 男女の平等について

【全体】では、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』が高いものは、高い順に「キ 政治や政策決定の場(74.5%)」,「イ 就職や職場(71.7%)」,「ク 社会全体(68.9%)」,「カ 社会の通念や慣習(68.6%)」,「ア 家庭生活(51.0%)」,「オ 法律や制度(41.7%)」である。また、『平等である』は「エ 学校教育(64.8%)」が最も高く,「ウ 地域活動(36.5%)」が続く。

【性別】では、いずれの事柄においても『男性優遇』の回答は女性が5.0~14.3ポイント男性を上回り,また「平等である」の回答は男性が6.4~17.8ポイント女性を上回っている。

「オ 法律や制度」で『男性優遇』の回答は女性(47.6%)が男性(33.3%)より14.3ポイント高く,「平等である」の回答は男性(45.5%)が女性(27.7%)より17.8ポイント高くなっており,男女の差が最も大きい。

(17) 配偶者や恋人の間で行われた場合、暴力だと思いう行為について

【全体】では、9割以上が「暴力だと思いう」と回答しているのは「ウ 身体を傷つける可能性のある物等で殴る(98.6%)」と「足でける(93.2%)」である。一方,「キ 何を言っても長時間無視し続ける(64.4%)」と「ク 交友関係や携帯電話等を細かく監視する(66.3%)」は「暴力だと思いう」が7割未満と低い。

【性別】では,「コ 大声でどなる」について,「暴力だと思いう」は女性(79.2%)が男性(67.3%)より11.9ポイント高く,男女の差が最も大きくなっている。

(18-1) 配偶者や恋人の間で行われる暴力だと思いう行為の経験について

【全体】では,「経験がある」が47.6%,「経験はない」は52.4%である。【性別】では,経験の有無については大きな差異はないが,男性は「ク 交友関係や電話・メール等を細かく監視する」を除き,「したことがある」が「されたことがある」より多く,女性は全ての行為で「されたことがある」が「したことがある」より多くなっている。

【性年代別】では,「経験がある」は女性40歳代(59.0%),男性50歳代(58.7%),男性70歳以上(56.6%)で他の年代より高い。

(18-2) 配偶者や恋人間の暴力に関する相談状況について〔複数回答〕

前問で配偶者や恋人間の暴力の経験がある方みの回答で、【全体】で最も高かったものは「どこ(だれ)にも相談しなかった(66.9%)」であり、「公的機関に相談した」は1.7%と少ない。

【性別】でも男女ともに「どこ(だれ)にも相談しなかった」が最も高く、また、男性(79.1%)が女性(57.4%)より21.7ポイント高い。女性は「友人・知人に相談した」が28.7%、「親族に相談した」が24.6%でいずれも男性(それぞれ11.1%, 9.9%)に比べて高い。

(19-1) 職場・学校・地域でのセクシュアル・ハラスメントについて

【全体】では「経験がある」が39.7%、「経験はない」が60.3%である。【性別】では、女性は「経験がある(46.6%)」が男性(30.7%)より15.9ポイント高い。【性年代別】では、女性40歳代(64.6%)、女性18~29歳(61.4%)、女性30歳代(53.5%)は、「経験がある」がそれぞれ他の年代より高く、男性50歳代(49.5%)と男性40歳代(46.6%)は他の男性の年代より高くなっている。

行為別では、各行為とも「経験はない」が「経験がある」より高いが、「経験がある」が多い行為としては「エ 容姿について傷つくようなことを言われた(全体:22.2%, 男性:18.9%, 女性:25.2%)」が全体、男女ともに最も高い。「ウ 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(全体:18.3%, 男性:14.4%, 女性:21.0%)」は全体、男性で2番目に高く、「ク 身体を触られた、または接触された(全体:15.3%, 男性:5.1%, 女性:22.8%)」は全体で3番目、女性で2番目に高い。

(19-2) 職場・学校・地域でセクシュアル・ハラスメントされた場合の相談状況について〔複数回答〕

前問で「職場」、「学校」、「地域」のうち、1つでも「経験がある」方みの回答で、【全体】で最も高いのは「どこ(だれ)にも相談していない(56.0%)」で、「友人・知人に相談した(27.3%)」、「親族に相談した(17.9%)」と続く。「公的機関に相談した」は2.0%と少ない。

【性別】でも男女ともに「どこ(だれ)にも相談していない」が最も高く、また、男性(67.6%)が女性(50.6%)より17.0ポイント高い。女性は「友人・知人に相談した」が34.2%、「親族に相談した」が20.9%でいずれも男性(それぞれ12.9%, 12.3%)に比べて高い。

7. 男女共同参画等について

(20) 男女共同参画等に関連する言葉や法律の認知度について

【全体】で最も認知度が高いものは「シ 選択的夫婦別姓」で、「内容まで知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせた『知っている』は84.0%である。次に『知っている』が高いものとしては、「カ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)(80.3%)」、「ク ジェンダー(70.5%)」、「オ 雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律(男女雇用機会均等法)(67.4%)」、「サ パートナーシップ制度(67.2%)」、「ア 男女共同参画社会(66.2%)」、「コ L G B T(60.9%)」が続く。

「知らない」が高いものとしては、「ウ 呉市男女共同参画都市宣言(74.1%)」、「イ くれ男女共同参画基本計画(71.6%)」、「エ 男女共同参画社会基本法(59.9%)」となっている。

【性別】では、「シ 選択的夫婦別姓」について、「内容まで知っている」が女性(40.7%)

は男性(31.3%)より9.4ポイント高い。

(21) 男女共同参画を推進する上で、力を入れて取り組むべきことについて〔複数回答〕

【全体】では、「子育て支援の充実(52.9%)」が最も高く、「男女共同参画に関する情報の提供(50.5%)」「高齢者や障害のある人への支援の充実(49.9%)」,「相談窓口の充実(48.5%)」が続く。

【性別】で女性が男性より高いものとしては、「相談窓口の充実(男性：45.3%, 女性：50.5%)」,「就職・再就職や起業等による女性の就業支援の充実(男性:32.3%, 女性:37.8%)」である。

【年代別】では、70歳以上を除く各年代(50歳代は「相談窓口の充実」52.7%と並び)で、「子育て支援の充実」と回答した割合が最も高い。